

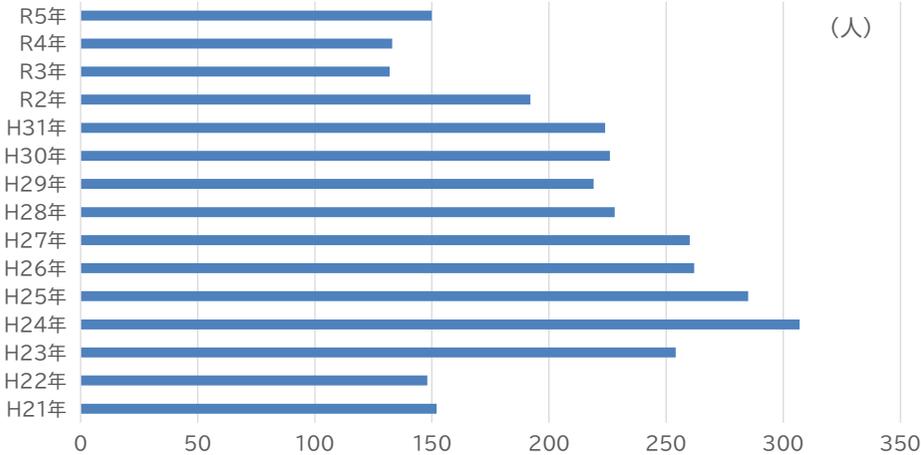
令和5年調査結果について

◆令和5年は150件（昨年より17件増加）

◆未受診や飛び込みによる出産をするハイリスク妊産婦と児童虐待の背景要因は類似しており、多くの機関が継続して支援する必要がある。

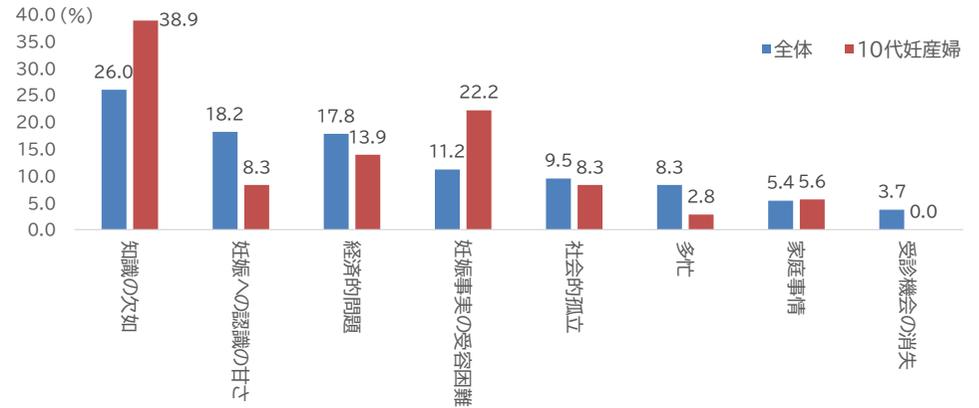
未受診妊婦数

- 平成21年から調査開始後増加し、24年の307人をピークに減少が続いていた。30年より増加に転じ、令和2年より減少傾向にあったが、5年に増加へ転じた。

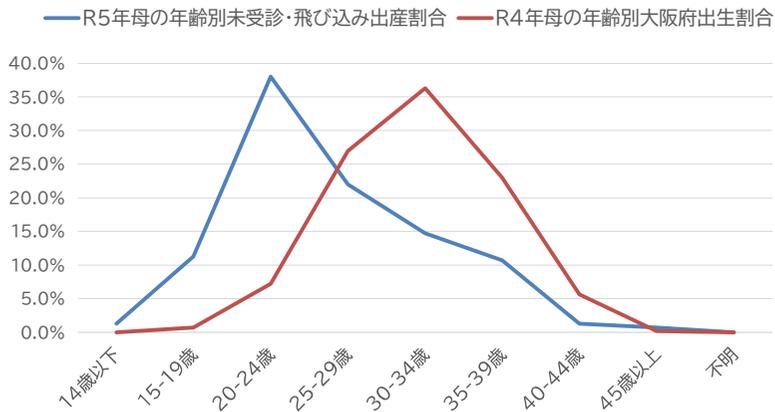


全体と10代妊産婦の未受診の理由

- 全体では、「知識の欠如」26.0%、次いで「妊娠への認識の甘さ」18.2%、次いで「経済的問題」「妊娠事実の受容困難」が多くなっている。
- 10代妊産婦は、妊娠に気づかなかったという「知識の欠如」38.9%、「妊娠の事実の受容困難」22.2%、次いで「経済的問題」「妊娠への認識の甘さ」「社会的孤立」が多い。

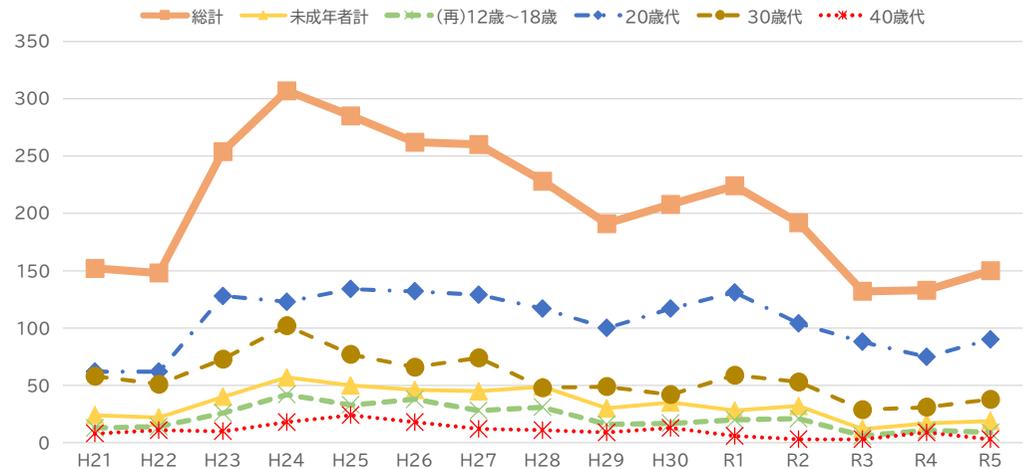


未受診妊婦の年齢分布



- 府内の出産年齢では30～34歳がピークである。
- 未受診や飛び込みによる出産では、幅広く分布しているが、20～24歳にピークがあり、全体的に低年齢の傾向にある。
- 未受診や飛び込み出産をした妊婦の平均年齢は約25.8歳であった。

未受診妊婦の年齢層別件数 年推移



- 未成年の占める割合は、緩やかに減少傾向である。
- 未受診妊婦の平均年齢は、調査開始年が28.3歳、以降、僅かながら低下し、15年間の平均年齢は26.6歳であった。